

## 平成 26 年度 第 1 回二宮町環境審議会 議事録

日 時：平成 26 年 7 月 18 日（金）午後 2 時～4 時

場 所：二宮町役場 第一会議室

出席者：藤田会長 / 高瀬副会長 / 亀井委員 / 岡田委員 / 古澤委員 / 西山委員 / 土谷委員  
三橋委員 / 久保田委員 / 内山委員  
筑紫町民生活部長

事務局：小島生活環境課長 / 須田生活環境班長 / 西山主査 / 青柳主事

傍聴者：1 名

### 1. 開会

○委員の委嘱について説明

地区長連絡協議会 大矢委員、校長会 桑田委員、神奈川県環境科学センター 飯田委員の解職により、高瀬氏、久保田氏、内山氏に新たに委嘱した。

### 2. あいさつ

（会長より）

暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

NHK の BS ワールドニュースを見ますと、アメリカのニュースでは頻りに豪雨や干ばつなどの気象問題を放送しています。アメリカも、気候変動問題へ真剣に取り組まざるを得ない状態になるのではないかと感じております。日本では最近、環境問題への意識が薄れてきているようですが、我々は地元の環境問題を踏まえて、しっかり取り組むことが必要かと改めて思っております。

会議の位置づけの説明と、私からのお願いをさせていただきます。

現在は、第 2 次環境基本計画実施計画【前期】の後半に移ってきたところです。実施計画【前期】の施策体系は 1. 生物多様性の保全、2. 循環型社会の実現、3. 低炭素社会の形成、4. 計画の推進方策に分類しており、さらに 75 事業にブレークダウンしています。

実施計画は、PDCA サイクルで推進しています。環境審議会の役割は Check、C です。評価シート等では町が事業及び全体について自己評価しています。

今日は、平成 25 年度の第 2 次環境基本計画実施計画の進捗状況について、審議会が第 3 者として Check し、次の Action に向けて意見を出してください。

第 2 回環境審議会を確認、取りまとめを行い、環境審議会の意見を町に提出します。

環境審議会の意見を受け、平成 26 年度下半期の事業及び平成 27 年度予算要求で行政がどのように取り組むか、第 3 回環境審議会事務局が報告します。

また、第 3 回環境審議会では「二宮町第 2 次環境基本計画【中期】」を検討しますので、本日はそのことも意識しながらご審議いただければと思います。

### 3. 自己紹介

- 委員の自己紹介
- 事務局の自己紹介
- 筑紫町民生活部長より報告

環境基本計画の基本理念は「のこしたい・つたえていきたい・ふるさとを ～里山・里地・里川・里海と暮らすまち にのみや～」です。里海ですが、平成 26 年から平成 43 年まで 181 億円かけ、大磯港から酒匂川までの砂浜を回復する事業が国の直轄事業として決まりました。

### 4. 議題

- (1) 平成 25 年度二宮町第 2 次環境基本計画実施計画の進捗状況について
- (2) その他

- (1) 平成 25 年度二宮町第 2 次環境基本計画実施計画の進捗状況について

\*事務局から資料修正点、資料 1-1、資料 1-2、資料 2、資料 3 の説明

#### 【質問・意見】

会 長：ただ今説明された点について、特にご意見ご質問があればお願いします。

委 員：意見無し。

会 長：では、これから 3 つの部会に分かれてご審議いただきます。後程、簡単にご報告いただきます。

#### ◎生物多様性の形成 議論概要

部会構成員：西山委員 / 三橋委員 / 内山委員 / 筑紫町民生活部長 / 青柳主事

#### ●1-1.吾妻山の保全と魅力の向上

- ・観光要素の評価に偏っており、遊具等の導入や開発が吾妻山の生物多様性に影響無いか、という観点が評価に欠けている。

#### ●1-1.①公園等管理運営事業・公園等維持整備事業

- ・町の観光協会なども連携協力の対象にした方が良い。
- ・今後の課題に「新たな施設の維持管理や樹木等の適切な維持管理を効率よく実施することを考える必要がある。」とあるが、どのように効率が良くないか具体的に知りたい。
- ・4、5、6月の来園者数を知りたい。

#### ●1-1.②吾妻山の新たな整備事業の実施

- ・1-1. ①の事業内容に「植生、動物の生息状況に応じた公園管理をする。」とある中、1-1. ②で芝桜エリアの整備をしたことを評価していることに違和感がある。芝桜は外来種な

ので生物多様性の保全という意味では矛盾している。

●1-2. 丘陵地や谷戸などの保全

- ・基本施策に対する評価の視点で、「動植物の保全」という言葉が出てくるが、「動物」がホタルしか扱われていない。蝶、鳥、虫などについての観点も入れるべきではないか。

●1-2.①里山再生育成事業

- ・水田の広がりや里山の拡大として評価し、評価はAでも良いのではないか。

●1-2.⑥二宮せせらぎ公園におけるホタル観賞会

- ・ホタル観賞会は素晴らしいと思う。
- ・評価シートに町の対応やボランティアとの連携が記載され、前年度の審議会意見が活かされている。
- ・前期（27年度）目標値でホタル出現数が600頭とあるが、実績は目標値をかなりオーバーしている。目標値を考え直さないのか。

●1-2.②土地改良事業（農道整備）

- ・農道の整備率が0%とあるが、これでは評価Cではないか。
- ・（事務局）大きな農道を新しく作ったりはできていないが、農業者の方にとって危険が無いように現状ある農道に手を入れて維持・管理できているため、評価Bとしている。

●1-3.水と親しめる葛川の再生

- ・葛川は比較的現状維持されている。現状維持するというのはとても大変なことなのでもっと高く評価しても良い。

●1-3.⑧葛川改修計画（県）

- ・昨年度河川が氾濫し、県に要望を出した。それに対し県も対応しており、評価がBになっている。自然災害への対応ができている。

●1-4.②海岸清掃（かながわ海岸美化財団）について

- ・前年度環境審議会の意見を受け、ごみの回収量を「年々増加していくことをめざす。」に修正してあるが、今年度実績を見ると一概にごみの量で評価することが難しいとわかる。目標設定について再考した方が良い。

- ・2.循環型社会の実現 2-4.①葛川への不法投棄の防止では、葛川の表面的なごみを取り終わり、鉄くずなどの重量物を回収できるようになったことでごみの量が増えているという記載がある。目標設定を考える際に、これも参考になる。

- ・この事業は、2.循環型社会の形成の事業ではないか。

●1-4.④朝市や地引網等による二宮海岸の魅力向上

- ・数値指標を朝市の来場者数、目標値を平成24年度の実績値100人の2倍の200人にした理由が知りたい。
- ・観光と環境が一緒になっていて、目標設定として違和感がある。
- ・（事務局）二宮町第2次環境基本計画の中で、「観光スポットとしても魅力の向上が期待され」ており、「二宮海岸を保全することを通じて、町民や来街者が憩い、親しめる海辺

の環境づくりを進めることとしているため、観光の要素が入った事業や評価になる。

●1-5.良好な自然を象徴する動植物の保全について

・展開がまとまっていると思う。

●1-5.⑤動物の適正管理

・二宮町は外来種の捕獲に対する理解があり、そこを前面に出して評価できる。

・山続きになっている近隣自治体との協働の視点を評価シートの中に入れてはどうか。

●1【生物多様性の保全】 多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち 全体進捗、評価、課題等についての意見

・二宮町の審議会は非常に細かく見ていると思う。それぞれの事業に、色々な想いが感じられる。

◎循環型社会の実現 議論概要

部会構成員：高瀬副会長 / 亀井委員 / 古澤委員 / 須田生活環境班長

●2-1.①ごみ減量化推進事業

・今後、事業者が増えた場合、1人1日当たりのごみ総排出量という指標は問題が出るのではないかと。再考するべきではないか。

・(事務局) 事業系ごみと家庭系ごみの量を正確に分けることは、平塚市や大磯町のように事業系ごみは一切収集しないという方式に変えれば可能である。

・全ての事業所に対し戸別に契約するように求められると、小規模の商店等は負担が大きくなる。

●2-1.②水分もうひとしぼり運動

・地域説明会は効果があった。

・平成26年度1回目の地域説明会では、水分もうひとしぼりの話がなかったが、2回目の説明会では話をしてほしい。

・ごみの出し方が変わると水分の出方が変わると考える。広域化後も目標値はこのままで良いのか検討してほしい。

●2-1.③マイバッグ・マイボトル等の啓発

・レジ袋削減のためにはレジ袋の有料化が有効なのではないか。マイバッグの利用を促すような町の施策が必要ではないか。

●2-1.④ごみ減量化推進協議会による推進

・実効的な協議会があるのは良いことである。

●2-2.①簡易粉砕機導入 (剪定枝)

・貸出用のチップー機の存在を知らない。

・(事務局) チップを撒くと庭の除草等の効果があるという観点で行っている事業であるが、

PRが足りないかもしれない。

- ・評価がCになっている。利用率が下がった理由を検証する必要がある。
- ・チップー機が2人がかりでないと運べず、使用しづらい。

#### ●2-2.②町内でのリユース・リサイクルの推進

- ・チャイルドシート等に対象を絞った「子ども用品活用バンク」を制度化してはどうか。
- ・広報紙等を活用し、「差し上げますコーナー」を作り、掲載してはどうか。
- ・大きな市にはリサイクル施設があるが、取引する物の量がある程度ないとスムーズに流通しないので、二宮町の規模では難しいと考えられる。CをBにすることは難しく、工夫が必要である。

#### ●2-2.③生ごみ堆肥化容器購入補助金

- ・需要が飽和しており、個人にさらなる利用を訴えるのは難しいのではないか。
- ・堆肥を作っても余ってしまう。空き地などを家庭菜園にして、そこに生ごみ処理機を普及させたり、要らない堆肥を回収して公共施設で利用したりするなど、堆肥の受け入れルートを作る必要がある。
- ・(事務局) 調査の結果、家庭で作られた堆肥でも欲しいという方が多くいる。家庭で作られた堆肥をそのまま引き取っていただくことができれば1つの循環になる。

#### ●2-2.⑤グリーン購入の推進

- ・町のホームページは内容がつまらないので誰も見ないと思う。グリーン購入の目印になるマークの紹介等、分かりやすいホームページの作成が必要である。ホームページのアクセス数もわかるようにしてほしい。

#### ●2-2.⑥道路改良改修工事（リサイクル路盤材を使用）

- ・リサイクル材を使用した工事を100%行っているのであれば、次の計画ではこの事業を環境基本計画実施計画に入れる必要がないのではないか。

#### ●2-3.②ごみ置場散乱防止対策（カラスネット配布）

- ・カラスネットの配布枚数を目標値にしているが、カラスネットは既に行きわたっているので苦情件数を指標にしていくことも考えられる。
- ・(事務局) 色々なところでカラス被害の話が出るので、全てカウントするのは難しい。
- ・(事務局) カラスネットの更新時期に来ているので、100枚以上は配布したい。

#### ●2-5.①地元製品の消費促進

- ・海の朝市はあるが、農作物を主体とした朝市が無い。JAで行っているが、町との関連性、協力関係はどうか。農産物を主体とした朝市を促進してはどうか。

### ◎低炭素社会の形成 議論概要

部会構成員：岡田委員 / 土谷委員 / 久保田委員 / 小島生活環境課長 / 西山主査

#### ●3-1.③公用車におけるエコカーの導入

- ・公用車にEV車の導入やEV充電設備を設置することが今後の課題となっているが、国、県及びメーカーの補助が継続されるか不透明であるため、前期中に導入できるよう検討してほしい。

#### ●3-1.⑥公共交通への利用転換の促進

- ・コミュニティバスの乗車人数の実績は目標値の半分程度であり、Bという評価はできないのではないかと。利用実績の調査データを活用し、よりニーズに合った効率的な運行ルートを検討してほしい。
- ・駅前には有料駐車場が頻繁にできて満車になっている。モビリティ・マネジメントを進めていることと実態がかけ離れている。違う切り口が必要ではないかと。
- ・今後の課題の中に町の公共交通の方向性を示す必要がある。
- ・コミュニティバス及びデマンドタクシーの車両を低公害車に変える検討をしてほしい。
- ・子どもが大人になった時に自家用車に頼らずに公共交通を利用しようと考えられるよう、公共交通に関する教育を子どもに対し行う必要があるため、中期に向け検討してほしい。
- ・町内の公共施設等を結ぶネットワークを日帰り観光の町づくりと併せて考えていく必要がある。

#### ●3-2.①太陽光エネルギー（ソーラー・温水器など）利用の啓発

- ・町の住宅リフォーム助成制度は、県や国の補助金と併用できない。また、町内業者による工事が必須要件になっており、利用しづらい。太陽光エネルギーの利用推進のために助成制度は重要であり、より利用しやすい制度にする必要がある。

#### ●3-2.②自然エネルギーに関する情報収集・提供【新規】

- ・住宅リフォーム助成制度のホームページの閲覧数を目標値にしているが、太陽光発電システム設置の助成を目的とした閲覧数を把握できない。太陽光発電システムの普及率を目標値にできないか。

#### ●3-3.緑化や雨水利用などによる環境の保全

- ・町の環境美化活動のための事業ではなく、低炭素社会の形成につながるような意識を持って取り組んでいただく必要がある。
- ・小学生向けに「エコライフチャレンジ」で節水の呼びかけをしていることも考慮し、中期計画において、水道水を節約することはCO<sub>2</sub>削減に繋がることを環境教育などで町民に啓発していく必要がある。
- ・中期に向けて、節水を推進するような事業を検討してほしい。

#### ●3-3.②花いっぱい運動普及事業（植栽）

- ・水道水を作る際にもCO<sub>2</sub>が出る。花への水やりに水道水を利用するのではなく、周辺に雨水タンクを設置して雨水を活用するなど、水の有効活用に取り組んでほしい。

#### ●3-4.環境保全による安全なまちづくり

- ・気候変動が激しくなっている。現在ある対症的な事業以外に、中期の事業として減災のことを入れていただけないか、庁内各課で検討して欲しい。

●3【低炭素社会の形成】 地球環境の保全に取り組むまち 全体進捗、評価、課題等についての意見

- ・個々の事業毎で評価をするのではなく、全体として環境負荷のかからないまちづくりを推進していくことが課題であり、コンパクトな町であることを有効活用し、太陽光発電システム、EV車の導入やEV充電設備の設置等、新エネルギーの活用及び自家用車に頼らない公共交通への利用転換等をエコロジーのネットワークとしてまとめる枠組みづくりを中期計画に向けて検討する必要がある。
- ・都市計画図を基に、自家用車の送迎を減らすCO<sub>2</sub>削減対策や観光を融合させた議論をして改善していくことが必要である。
- ・中期後期計画において、太陽光発電システムだけではなく、水力、風力及び潮力などの新エネルギーの活用について事業化する必要がある。

●【全体】についての意見

- ・「神奈川県」の記載は「県」と統一し、部署等記載しない方が良い。
- ・中期計画に向けて、環境教育及び防災教育等、減災の視点を持った取り組みを事業化する必要がある。

(2) その他

事務局：次回開催は8月26日（火）午後2時からを予定しております。本日意見を出せなかったという方は、事務局で意見取りまとめをしますので、7月29日（火）までに意見をメールやFAXで事務局までご提出くださいますようお願いいたします。

会 長：それではこれで会議は終了いたします。

5. 閉会